

北朝鮮問題特集：金正恩の謀略は成功するか

漢和防務評論 20180507(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

最近、米朝会談が行われる前提で各種評論がなされていますが、漢和は3月中旬に書いた記事で、変数が存在するとしています。
この記事は、金日成以来の北朝鮮の核開発にからむ北朝鮮外交を分析し、今後の北朝鮮の対米戦略を予測しています。
要するに、北朝鮮は絶対に核と弾道ミサイルを手放さない。当面は実験が必要ないので、微笑外交に転換し、経済制裁の緩和を狙うはず、と予測しています。現在開発中の固体燃料弾道ミサイルが完成すると、また実験が始まるはず、と。経済制裁の緩和を目的に微笑外交に転じた、と見るべきです。
核放棄は国内的にも、対外的にも有り得ない話である、と。

平可夫モスクワ

金正恩兄妹は聡明である！本誌は昨年正しく予測した：金正恩は2018年から”微笑外交”に転じ、北朝鮮は（中国を除き）大国の寵児になる、と。金正恩は中国が根本的に嫌いだ。今回平壤は、外交上徹底して北京を弄んだ。米朝関係の動向に対して、北京は全く状況を掌握していなかった。北京が主導する”六者会談”は、實際上すでに歴史上の屍になっている。状況に無知なのは北京だけであり、面子を重視する北京はそれを承認できなかった。ロシアは主役ではないが現状を理解していた。

もし真に米朝首脳会談が実現したならば、（この文章は3月14日、モスクワで書いている）金正恩は金日成時代からの宿願を達成したことを意味する。すなわち3代に渡って最も渴望してきたことは、米朝首脳会談の実現であった。さらには、米国に対し外交上徹底して自国を承認することを迫ることであった。たとえ最終的に米朝首脳会談が行われなかったとしても、トランプ大統領から首脳会談を希望する、と表明されれば、北朝鮮にとっては勝利したことになる。

KDRは、現在朝鮮半島の今後の情勢を如何に予測しているか？

金正恩は真に核兵器を放棄するか？

米朝は国交を樹立するか？

当然否である。

KDRは読者に対し本誌の戦略問題に関する予測記事を熟読するよう勧めたい。もし一刊行物が戦略問題に関して合理的予測を行ったならば、それを詳細に読まなければならない。これは本誌の自慢でもなんでもない。

我々の予測は次の通り：朝鮮半島の核兵器問題は、当然順風満帆というわけに

はゆかない。金正恩は絶対に核兵器は放棄せず、保有し続ける。実際のところ、核保有の実質的意義は、北朝鮮内部に対するものであり、政権存続のために必要であるからだ。なぜか？金王朝にとって核兵器や戦略ミサイルを保有した後は、誰が敢えて政変を求めるだろうか？現在 KDR が信じるのは、もし大規模な内部暴動でも起きなければ、金王朝は核兵器に依存して第 4 代まで続く、と。第 2 は最も重要である。歴史的に見て、朝鮮半島の如何なる政変も外部世界の支持が必要だった。歴史上、主として中国、日本、ロシアの影響が大きかった。しかし北朝鮮が核兵器を保有した後は、外部世界は誰も政変政治勢力を支持しようとはしない。この種の政変は軍隊によるものか、或いは政治勢力によるものかを問わない。なぜ金正恩は金正男を暗殺したのか？それは中国の支持の下、政変を恐れたからである。

北朝鮮は、対外的には、米国の政治的、軍事的威嚇に対抗する力を持たねばならない。もしリビアのカダフィ、イラクのフセイン政権があのような形で転覆させられることがなかったならば、朝鮮半島の非核化は可能だったかもしれない。しかし現在は 100%不可能になった。これは米国が自ら核拡散防止の道を閉ざしたのである。歴史を回顧すれば分かる。我々は、当初カダフィ及びフセインが誠実であり、真に核兵器及び化学兵器を放棄したことがわかっている。我々はここで行う予測を忘れるべきでない：朝鮮半島での政治的遊戯は、新たな楽章に入っただけであり、必ず同じように繰り返される。米朝関係はまた悪化する。戦略の根本的衝突はただ一つである：金正恩は核を棄てない。しかし米国が求めるのは、北朝鮮核の徹底した破棄である。この溝は埋められない。如何に妥協するか？

金正恩はなぜ核放棄を言うのか：核放棄について協議できるのか？もし誘いの餌が小さければ、トランプは餌に食いつくことはない。北朝鮮の 3 代の王朝は、ナチス時代のヒットラーの軍隊と同じ戦術を繰り返している。”馬鹿な国”は大国である。本当に”馬鹿”か？当然そうではない。トランプ、韓国政府は”馬鹿”を装っているだけである。真に馬鹿な国家はただ一つ。この国家は、外部世界の真実を根本的に理解していない。また理解しようとしていない。第一に、金正恩の戦術を見る。金日成の戦術とどの程度似ているか？1990 年代の米朝会談を回顧してみる。特に 1994 年の金日成が米国と達成した協議である。第一は詐欺である。金日成が当初カーターに対し承認したことを見よ。これは詐欺文書である：北朝鮮は核兵器を開発する意志はない、と。これと同時に北朝鮮は、秘密裡に寧辺原子力発電所から実験用原爆を製造できるウランを取り出した。その後、北朝鮮の核兵器の開発は一段落を告げる。続いて原子爆弾を開発するには一定の時間が必要だった。この時間を利用して、微笑外交に転じ、米朝協議的一幕も演じた。北朝鮮が得ようとしたのは時間のみである。一瞬でも核開発を放棄したことはなかった。

北朝鮮の外部世界に対する欺騙政策はいつから始まったのか？

最初に騙された国は、実際には米国ではなく冷戦末期のソ連である。

ソ連情報機関は、1980 年代中期から北朝鮮が核兵器を開発しようとしていると

の情報を得ていた。同機関は、特に核爆弾の材料になるウランの精錬に関する詳細情報を入手しソ連共産党中央に報告していた。ゴルバチョフは後に、ロシアのテレビで次のように語った：我々は、当時金日成にこの件を問いただした。

(KDR:金日成が 1986 年にソ連を訪問した時期か)

金日成は次のように述べた：ゴルバチョフ同志、当然そうではない。我々にそのような意図はなく、核兵器開発の能力もない。その様な事をして何になる？ソ連が支持してくれるだけで十分である、と。ここでゴルバチョフは初めて信用した。

その後、類似の情報が続々と入ってきた。ソ連共産党は、北朝鮮労働党に対して何度も確認したが、彼らは躊躇せず情報は嘘だと述べた。ゴルバチョフは同取材を受けた際に、最後にこのように述べた：北朝鮮人は信用できない。これ以上話す必要はない。取引できない相手だ、と。

米国は 2 代目ブッシュ時代になり、2002 年に騙されたことがわかった。なぜなら北朝鮮がパキスタンからウラン抽出のための遠心分離機を大量に獲得したことがわかったからである。ここで米国は北朝鮮が米朝協定を遵守していないことを非難した。米国は軽型原子炉の建設を停止した。この段階のゲームが 2005 年の金正日の時代まで続いた。なぜなら北朝鮮のこの段階の核武装計画はさらに多くのウランを抽出し、さらに多くの核弾頭を生産出来るようにすることになったからである。

KDR は北朝鮮が 2005 年までに相当多くのウランを抽出したと確信している。しかし原爆を製造するには、少なくとも約 1 年前後の期間を必要とし、この間北朝鮮はまた微笑外交を展開した。2005 年 9 月 30 日には第 4 回六者会談で”多大の成果があった”と宣言した。

平壤は次のように述べた：一切の核兵器と核開発計画を放棄する、と。これが多大の”成果”か？これは、多大の”まき餌”ではないか？金正日は、米国が”まき餌”に食いつくことを望んでいた。当時、平壤の計略は、米国に再び原子炉の支援を開始させることにあった。同時にすでに国際社会が開始していた制裁を弱めることにあった。

しかし米国は騙されなかった。米国は次のように声明を出した：平壤が正式に核兵器を放棄し、核不拡散条約に再加入するまでは米国は軽水炉を提供することはできない、と。

この時期、平壤は軍事技術方面で真に核兵器を完成させ、長距離弾道ミサイルを製造していた。ここで新たな段階のゲームが始まった。このとき再び軍事対抗手段に戻った。2006 年 7 月 5 日、北朝鮮は弾道ミサイルを 7 発、試射を行った。10 月 9 日、初の核実験を行った。

その後、2017 年に至るまで、ナチスドイツ軍と同様の戦術を用いた。同年、金正恩は HS-14、HS-15 長距離戦略ミサイルの開発を完了した。核弾頭の小型化にも大きな進展があった。本誌が見るところ、HS-14、15、潜水艦発射弾道ミサイル、光明星シリーズ固体燃料弾道ミサイルが未だ一連の技術試験が必要であり、その結果によって実戦配備が可能になるのだと思う。それにしても政治的に見ればこれらの兵器はすでに政治的には脅威を形成している。

したがって昨年末の KDR の判断によると、金正恩が 2017 年に焦燥にかられて

弾道ミサイル、核兵器の試験を行った理由は、これらの試験がもたらす外交、経済封鎖危機の期間を短縮し、次に転ずる微笑外交のための時間を稼ぐためであったと思う。

したがって軍事技術面から見ると、2018年、上述の全ての武器の開発はすでに基本的に一段落を告げ、これから短期間、新たな核実験、或いは弾道ミサイル試験は必要としない。次の段階、北朝鮮は、固体燃料の中距離弾道ミサイルとICBMを開発するであろう。平壤はすでに軍事パレードでこれら装備の模型を展示した。しかしこれらの新たな戦略武器の開発にはさらに多くの時間が必要であり、同時に経済環境を改善する必要がある。北朝鮮は、これらの時間を獲得するため微笑外交に転換する。これは、2018年、金正恩の米朝外交に対する新たな謀略である。

したがって金正恩は次のことを承認するであろう：米朝首脳会談の前に、核実験、弾道ミサイル試験は行わないことを。これが譲歩と言えるのか？しかしトランプはラッキーだと思うだろうか？トランプは知らないのだろうか？そうではない。

もし再び米国を弄んだらどうなるか？もし金正恩の祖父のように、父親のように、まき餌を大きくし、金正恩が提議する：核放棄は協議できる、と。次に米国を孤立させるために、まず最初に韓国との関係を改善する。これは金日成時代の核外交戦略から全く変わっていない。韓国は従順である。一旦韓国が北朝鮮支持に転向すると、事実上、米国は孤立する。或いは日本も政策を変えざるを得なくなる。中国に至っては、平壤から見れば、脇役に過ぎない。北朝鮮が中国に求めるのは経済援助のみである。平壤の主な相手はワシントンである。最高の目標は首脳会談の実現と国交の正常化である。しかしワシントンの求める条件は当然全面的な核破棄である。可能か？この戦略的対立は金正恩時代の米朝関係を決定する。これが反復される。

したがって北朝鮮にとって次の段階は、軍事的にHS-14、15戦略ミサイルの信頼性を高め、多くの小型核弾頭を製造し、新時代の固体燃料長距離ミサイルを開発しなければならない。これらの目標を達成する前の過渡期は北朝鮮は微笑外交に転換しなければならない。最大の目標は経済制裁の緩和である。もし可能ならば、米国に北朝鮮を核保有国家として認めさせ、国交を樹立する。これは可能か？米国が拒絶したあと、また外交の難局が形成される。そのときは北朝鮮はさらに信頼性の高い小型核弾頭、各種戦略ミサイルの開発が新たな段階に入り、新たな武器試験行われ、朝鮮半島情勢はまた別の悪循環に入っていく。北朝鮮は自己の戦略目標達成に突き進む。

多少とも確認できることは：金王朝は核を放棄することは絶対がないということである。この条件を飲めば、その他の問題については北朝鮮は譲歩するかもしれない。

KDR が予測する北朝鮮の譲歩戦略は次のとおりである：

1. ある程度、米国に対し核拡散と弾道ミサイル技術の拡散を行わないことを承諾する。この点は可能だ。その代わりに米国は北朝鮮の核保有国としての地位を承認し、国交を樹立する。
2. ある程度、米国に対し、核兵器の数量、弾道ミサイルの数量を一定の水準の

下で制限することを承諾する。そして北朝鮮の核兵器と弾道ミサイルが米国に対抗するものではないことをワシントンに信じ込ませる。すなわち米国と北朝鮮の間で、戦略核兵器制限交渉を行う。一旦北朝鮮の戦略ミサイル、核兵器が米国に対抗するものでない、となれば、それでは誰に対するものなのか？

3. 北朝鮮の戦略核兵器、弾道ミサイルの数量を制限した上で、北朝鮮はこの分野での更なる開発の凍結を承諾する。

4. ウラン濃縮の停止を承諾する等々。

米国および韓国は、北朝鮮の今回の動きの真の動機を知っているのだろうか？北朝鮮は絶対に核兵器を放棄することはない。

KDR が各種情報を総合判断すると、日米韓は知っているはずである。これらの国家の一部の戦略学者は、テレビ番組でもこのような判断を述べている。トランプは、外交は知らないが、商売は知っている。米国の強大な情報機関は優れた分析能力があり、彼らはトランプに対して逐次報告し、各種の具申もしている。

トランプは、なぜこのようなトップ会談をしたいと返答したのか？理由は次の通りである：政治家或いは政客が問題を考慮する際、武器専門家や軍人、商人の出発点とは完全に異なる。

その一、金正恩がまいた餌は、食いやすい。”核の放棄は交渉次第、しかも可能である”と。

人間は思いがけない行動をすることがある。各方面は北朝鮮が今回もまたワナを仕掛けたことを明確に知っているにも関わらず、ひょっとすると交渉できるかもしれない、と。考えを変えるかもしれない、と。

その二、選挙対策の必要性からである。韓国では政治スキャンダルがやっと収束した。新たな大統領は実績を上げたい。北朝鮮問題処理で実績を上げれば強力な支持が得られる。一旦北朝鮮問題で画期的進展があれば、憲法改正も可能になる。大統領は再選を希望している。

トランプについては、証拠が出るのを待っている。彼を弾劾にかけたい人は多勢いる。この1年間の彼の経済面の実績は彼の各種の政治的失敗を帳消しにするには不十分であり、2018年3月の段階で彼のチームの主要メンバーは安定していない。しかも誰もが彼の外交音痴を認めている。一旦彼が初の米朝首脳会談に臨んだ場合、彼は歴史に名を残す。しかも北朝鮮の核兵器、弾道ミサイルはすでに”政治的に”米国本土の脅威になっており、交渉せざるを得ない。この点は、以前の米国大統領が直面した局面と完全に異なる。

たとえ最終的に交渉しなかったとしても、彼は平和交渉拒絶の罪名を北朝鮮に押し付ける。このほか、今年、米国は、米国の中間選挙の年である。それなりの対応をしなければならない。

その三、交渉すれば、北朝鮮の真の考え方、交換条件、核兵器、弾道ミサイルに関する各種情報が明らかになる。

しかし **KDR** の予測では: 第一次米朝会談には変数が存在する可能性がある。(この記事は 3 月 14 日に書いている) 不確実性が極めて大きい。ひょっとすると当初から平和を装った煙幕かもしれない。一旦双方が握手すれば、たとえ実質的成果がなくとも、金正恩の外交的勝利となる。これ以降、米朝が直接接する機会が生まれるからである。

以上